



白門経友会

多摩キャンパスは青葉が繁り、初夏を迎えつつあります。

中央大学夢企画の活動について

目に鮮やかなツツジの季節は過ぎました。初夏に向かい色々な花々が咲き始め、キャンパスを一層魅力的にしております。

新学期を迎えて早二ヶ月近くが経とうとしています。新入生達もキャンパスに慣れ、大学生活を満喫しています。GWが過ぎ学 生達は皆勉学に身を入れて取り組んでいます。

会報五十九号で紹介された「〇一〇年度卒業の局芳暉常任幹事が担当する夢企画のプロジェクトの一環として今年度は以下のイベントが実施されましたので概要を紹介いたします。

具体的には、学部を横断した「中央大学TAMARIVA!!」という学生組織により行われました。

①テーマ『新一年生交流会』

日時 三月一日(土) 10時～12時

場所 経済学部 7104教室

参加者数 九十二名(内スタッフ二十名)

大学でどのように過ごすかという課題について現役の先輩から直接グループ別に話を聞ける場として設定しました。新一年生が予想を超えて多数参加しました。先輩との交流会の後も新入生同士で遊びに行ったり、入学前の友達作りによって、不安を解消できたようです。

- ②テーマ『英語 海外、留学に関する学びの場』
- 日時 四月八日(土) 10時～12時



(第2回・7211教室)



(第1回・7104教室)

文化の成り立ちに関して初めて学んだことなどが多かったので、今後の各自の英語学習への動機づけが高まったと思います。次回はより多くの学生の参加を期待しております。

普段、企業等で英語のコーチングをされている方をお呼びし英語の成り立ちなどを教えていただきました。内容は、英語圏の文化の成り立ちに関する初めて学んだことなどが多かったので、今後の各自の英語学習への動機づけが高まったと思います。次回はより多くの学生の参加を期待しております。

第27回 白門経友会 定期総会のご案内

- | | |
|---|--|
| 1. 日 時 6月10日(土) 午後2時開会 | 4. 記念講演 14:40～16:10
講師 小口 好昭 教授
演題 「那須疏水の開発と地域発展」 |
| 2. 会 場 中央大学多摩キャンパス
7号館1階 7102教室 | 5. 懇親会 16:30～18:30
会場 生協4F 和おん
会費 OB(卒業5年以上) 10,000円
OB(卒業5年未満) 3,000円
現役学生 1,000円 |
| 3. 定期総会 14:00～14:30
① 平成28年度事業報告・決算報告
② 平成29年度事業計画・予算案
③ その他 | |

- ・会費は、当日受付にて集金させていただきますのでよろしくお願ひいたします。
- ・役員の方は当日13:00より幹事会を開催しますので同時刻までに会場にご参集下さい。

(2) 2017年(平成29年)5月25日

白門経友会

第一号議案 二〇一六年度活動報告

III 会報の発行と主要記事
第六二号 二〇一六年五月十五日発行
定期総会の報告、新企画記事
第六三号 二〇一七年一月二十日発行
経済学部の新規活動紹介

I 会議
二〇一六年度定期総会

日時 二〇一六年(平成二十八年)
六月一日(土)一四時

場所 中央大学多摩キャンパス
七号館七一〇四教室

議案

第一号議案
二〇一五年度活動報告及び決算報告

第二号議案
二〇一六年度活動計画及び予算案

第三号議案
その他報告事項

以上原案通り可決されました。引き続き、
塩見英治教授より「沖縄経済と国際航空
貨物ハブ」という演題で講演して頂きました。

その後、会場を生協四階「和おん」に移
し現役学生を交えた懇親会を開催いたしま
した。

2 幹事会
 ① 二〇一六年五月二八日(水)
 第二十六回総会の議案を審議、承認。
 ② 二〇一七年一月二十五日(水)

常任幹事を拡大して諸行事を承認。

① 二〇一六年四月一五日(金)
 ② 二〇一六年六月二九日(水)

ここでは、本会を代表して齋藤顧問より挨
拶していただきました。

年二回程度開催する。

3 常任幹事会
年十回程度開催する。

II 行事

1 学部授業・ゼミへの協力

定期総会の報告、新企画記事
第六三号 二〇一七年一月二十日発行
経済学部の新規活動紹介

第六二号 二〇一六年九月三十日発行
新入生歓迎・第二六回定期総会案内等

IV 学生への呼びかけ

経済学部ゼミナール連合会、キャリアガイダンスや各ゼミ学生との交流を広げるた
めに常任幹事会などへの参加を呼び掛けま
した。また今年度は中央大学夢企画プロ

ジェクトとの連携で「TAMARINAI!」の学
生たちとのコミュニケーションの場として、新入生との交流や英語学習の会合も開

催いたしました。

第二号議案 二〇一七年度活動計画

I 会議

1 二〇一七年度定期総会
日時 二〇一七年(平成二十九年)
六月一〇日(土)一四時

III 会報発行

会報「白門経友会」を年四回発行する。
なお、前年度同様に原則として紙ベースでの発行を取りやめ、ホームページへの掲載

とする。

2 経和会懇親会に参加
場所 多摩キャンパス

七号館七一〇二教室

先生方の歓送を含めた経済学部教員の親睦
会である「経和会」の懇談会に招待され白
門経友会の常任幹事も参加いたしました。

演題「那須疏水の開発と地域発展」
講師 小口 好昭 教授

3 入会呼びかけの強化

以上

第1号議案(2)

2016年度 決算報告書

自 2016年4月 1日

至 2017年3月 31日

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前年度繰越金	451,102	総会費	140,000
会費収入	246,000	会報発行費	40,000
総会費収入	56,000	HP維持費	27,000
寄付金収入	80,000	交流費	40,000
受取利息	7	振込手数料	432
雑収入	0	通信費	25,256
		雑費	4,521
		小計	277,209
		次年度繰越金	555,900
合計	833,109	合計	833,109

次年度繰越金内訳

三井住友銀行	普通預金	237,868
ゆうちょ銀行	振替貯金	9,097
ゆうちょ銀行	通常貯金	305,304
現金		3,631
	合計	555,900

以上の通りご報告申し上げます。

2017年5月22日

会長 篠原 正博 ㊞

幹事長 濱岡 剛 ㊞

監査の結果、いずれも正確かつ妥当であることを認めます。

2017年5月25日

監事 倉本 優 ㊞

監事 森元 公和 ㊞

第2号議案(2)

2017年度 予算案

自 2017年4月 1日

至 2018年3月 31日

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前年度繰越金	555,900	総会費	140,000
会費収入	200,000	会報発行費	40,000
総会費収入	100,000	HP維持費	27,000
寄付金収入	80,000	交流費	100,000
受取利息	10	振込手数料	1,000
雑収入		通信費	30,000
		小計	338,000
		次年度繰越金	597,910
合 計	935,910	合 計	935,910

アジアの経済回廊とグリーン経済

名譽教授 緒方 俊雄



最終回（本稿は二〇一四年六月の記念講演からの抜粋です。）

昨年（二〇一三年）は日越友好四十周年であり、中央大学で ASEAN Week を開催するということで、ベトナムの共同研究者4人を日本に招聘して、中央大学で国際シンポジウムを開催させていただきました。その議事録は、Green Economy and Ecovillages (2014) としてビルトップ出版から公刊させていただきました。副題に、GMS based on Dong Du and Nam Du と書いてあります。

GMS は、Greater Mekong Subregion (大メコン圏、メコン河周辺諸国) の略称ですが、アジア開発銀行 (ADB) は、ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー、中国雲南省の会合 (GMS 経済協力会合) を設け、運輸、エネルギー、通信、環境、人材開発、観光、貿易促進、投資の8部門について国境をまたがるプロジェクト案件を推進しています。日本のODAで「東西回廊」や「南部回廊」として、アジアの道路網が広が

り、メコン河周辺諸国の発展に寄与しています。

また Dong Du (ドンズー) や Nam Du (ナムズー) という聞きなれない用語ですが、これらはベトナム語です。これは明治時代に、ファン・ボイ・チャウ (Phan Bội Châu) とこうべトナム人が、フランスの植民地主義から独立するために、ベトナムの若者約二百人を日本に留学させ、民族自立化の人材育成をすると

いう運動を起こしました。ベトナム史、特に日越史として大変有名な話です。Dong Du とは「東(日本)から学ぶ(Dong Du) 運動」を意味します。しかし、その後、日本は日仏協約を締結すると、フランスから植民地活動を妨害するべトナム人を日本で教育するのはけしからんという要請で、留学生全員を強制的にベトナムに帰国せることになりました。ベトナムの港にはフランスの憲兵が待機しており、彼らは逮捕され、ハノイのホアロー収容所に収監され、全員ギロチンで処刑されてしまします。この運動の主犯であるファン・ボイ・チャウの処刑の番になつた時に、國民が騒ぎを起したのです。驚いたフランスは、ファン・ボイ・チャウを処刑すると全国的な暴動が起ることを恐れ、フエに幽閉しました。ゲアン省の生家、ホアロー収容所、フエの死没地を訪問し、彼の命を懸

けた活動の歴史を知つて、私は涙しました。今度は、私が日本の学生をベトナムに引率しようと思ったわけです。その活動を、今度は日本人である私たちが「南(ベトナム)から学ぶ」という意味で、「Nam Du」と名付けました。そういう「Nam Du」と名付けました。そういう意見も、Dong Du and Nam Du 運動の学生交流を通じて、メコン河流域諸国との持続可能な発展を推進しようという意見をまとめたのが本書です。

これはホーチミンルートの写真です。ベトナム戦争時の戦略道路ですが、いまは舗装されています。しかし、まだガソリンスタンドやレストラン、街灯もあります。夜はよく交通事故が起こるそうません。夜はよく交通事故が起こるそ

です。ここに緑地がありますが、これは

私たちが植林した「日越友好の森」です。日本の学生とベトナムの学生そして地域の農民が参加して、王子製紙の海外植林部から支援を受け、毎年植林を行っています。森林は「酸化炭素を吸収し生長します。その森林バイオマスを活用して、地域農村を活性化させ、「道の駅」を作り、「緑の経済回廊」とする現地研修プログラムを指導してきました。

私は、ゲアン省タインチュオン県の人民委員会から、現地に正式に1万ヘクタールの土地使用の許可をいただきました。二〇〇七年から毎年、ベトナムでの学生合同ゼミとグリーン開発の「日

越友好の森」植林活動を実施してきました。現地では、樹木はおよそ5~7年間で直径20センチの太さに成長します

で、京都議定書の AR-CDM (植林によるクリーン開発メカニズム) の蓄積炭素量の測定、その後それらを伐採して製紙用のチップにし、また家具材としても活用してもらっています。これによつて地域農村が活性化し、生物資源を使ったバイオ・エネルギーの街灯でホーチミンルートを明るくし、各地域の特産物を「道の駅」に並べ、日越緑化事業(環境ビジネス)を展開し、「緑の経済回廊」として持続可能な発展を期待してゐるところです。

経済学部は、今年からグローバル・フィールド・スタディーズ (GFS) という海外研修制度がスタートしました。今後も経友会の皆様のご支援を得て、ますますの発展を祈念しております。ご清聴ありがとうございました。